

# 相談支援事業所 協働モデルの現状と展望

## ①相談支援事業所 協働モデル 山梨県甲斐市 ～地域で支え合う、あたらしい相談支援の形～

人口: 約7万5千人

基幹相談支援センターの設置について

名 称～甲斐市障がい者基幹相談支援センター

運 営～社会福祉法人甲斐市社会福祉協議会

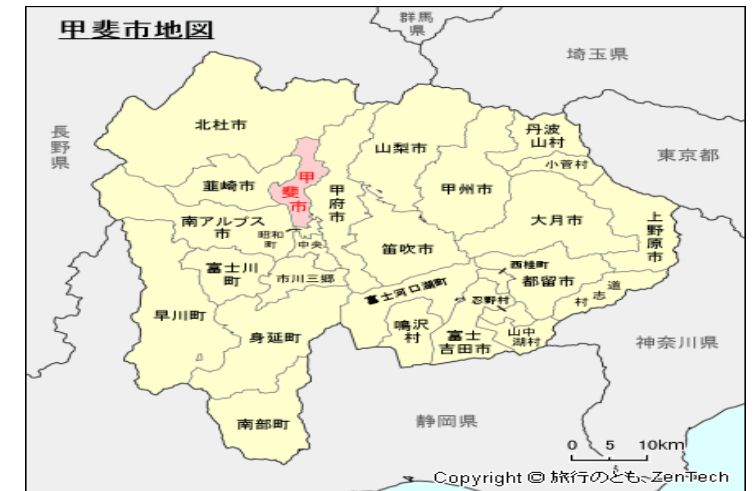
体 制～主任相談支援専門員の配置あり／委託相談機能あり

市内相談支援事業所数：13か所

甲斐市自立支援協議会事務局体制：甲斐市障がい者支援課及び甲斐市障がい者基幹相談支援センター

地域生活支援拠点等整備形態：面的整備型

障害者虐待防止センター設置状況：甲斐市障がい者基幹相談支援センター・甲斐市 障がい者支援課



## ②協働体制の経緯と構築までのプロセス

### 協働事業所

- ① 合同会社TAK                      相談支援事業所ふくろうの窓
- ② 社会福祉法人ぎんが福社会   相談室りゅうおう
- ③ 合同会社SunS                    相談支援事業所Color

### 協定の経過

- ・ 2024年1月、「ふくろうの窓」と「Color」が協定を開始  
Colorが初任者研修修了者1名で立ち上げ。相談支援事業所として始動していくサポートも含めて合意形成
- ・ 「相談室りゅうおう」からの呼びかけで、2024年5月より3事業所での協働
  - ① ケース共有による様々なケース対応への学び
  - ② 相談支援専門員同士のピアサポート を軸に連携を強化。

### ③現在の協働体制のしくみ

「協働体制」による密な連携～いつでも連絡・相談できる体制

- ・ 定例会議: 毎月第2・第4水曜日に運営・ケース共有会議の開催
- ・ 情報共有: 共通フォルダで統一シートや資料の共有
- ・ 連携体制: 各事業所の強みを活かし、効率的に連携

この体制で、質の高い支援と迅速な制度等の情報共有を可能に

## ④協働がうまくいった理由・継続の工夫

- ・信頼と学びが生む持続性:ざっくばらんな雰囲気での定期的な対話
- ・相互理解の促進：月2回の会議で深い連携と互いのケースレビュー。
- ・効率化: ケース共有シート活用で業務負担を軽減。
- ・経営安定: 協働による機能強化型報酬算定で安定化し、安心して支援に集中。

## ⑤効果・成果・課題

### 効果

ケース対応の幅の広がり

複数事業所の知見を共有することで、困難ケースや多様なニーズに対応できる幅が広がった。

### 成果

相談支援専門員同士の支え合い

ピアサポートにより、一人で抱え込みがちな相談支援専門員の心理的負担が軽減され、安心して業務に取り組めるようになった。

### 課題

専門性の向上: 定期的なケース共有を通じて、相談支援専門員個々のスキルアップにも繋がっていけるとよい。

## ⑥地域へのメッセージ・今後の展望

### メッセージ

相談支援専門員が安心して楽しく仕事出来るサポートへ  
私たちの協働モデルは、相談支援事業所の垣根を越えた新しい  
相談支援専門員同士の繋がりと連携を創出しています。

### 今後の展望

この連携を通じて、相談支援専門員が楽しく仕事ができること  
でソーシャルワークの質を向上させる、新しい相談支援事業所の  
カタチを目指しています。

他地域の皆様にも身近な事業所との「小さな連携」から始めていただき、  
この新しい働き方の可能性を共に追求できることを願っています。